

## インドネシアの新型コロナ対策とニューノーマル

6月8日現在、インドネシアにおける新型コロナウイルスの感染者数は32,033人、うち回復者数は10,904人、死亡者数は1,883人となっています。

例年であれば長期休暇の断食明けの時期、各地の観光地は家族連れで賑わいますが、今年はどこも新型コロナウイルスの影響により閑散とし、また世界遺産ボロブドゥール寺院など営業していない施設もありました。2020年4月のインドネシアを訪れる外国人観光客は2019年の同じ時期に比べ、87.44%の下落となりました。

観光業界だけではなく、新型コロナウイルスの流行は教育業界にも影響を及ぼしています。今年の全国統一卒業試験(ujian nasional)は小学校から高校まで全て正式に中止されました。全国統一卒業試験は2021年から廃止されることが既に決まっていたため、実質、最後の試験が中止となりました。インドネシアでも、オンライン授業が行われていますが、インターネット環境が整っていない家庭もあり、人によっては携帯電話で参加する人、参加できない人など様々です。参加できない場合は、自分で勉強を進め、先生が家を訪問する際に質問をするというスタイルをとっています。

政府は新型コロナウイルスの流行を防ぐため、外出に際してバスや電車など公共交通機関の利用を控えるよう強く求めていました。その結果、利用者は通常時の20%にまで落ち込み、公共交通機関の運営会社の収益にも大きく影響しました。そのため、それらの公共交通機関は乗客ではなく、オンラインショッピングなどの荷物を運ぶために利用されています。収益は乗客の時ほど多くはありませんが、従業員の雇用を継続するため、この苦肉の策を取ったようです。

インドネシア政府は、これ以上の新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、全国的にルール(ニューノーマル)を定めました。日本と同様、手洗いの励行、ソーシャルディスタンスの確保、マスクの着用、人混みを避ける、日々のニュースに注目しておくといったルールです。

また、インドネシア政府は、地域を流行の度合いによってゾーニングし、それぞれのゾーンに応じた規制を行っています。

## インドネシアにおける新型コロナウイルス流行地域のゾーニング

|                          |  |
|--------------------------|--|
| Zona hijau /<br>グリーンゾーン  | 新型コロナウイルスの流行が収まっている、もしくは見られない比較的安全な地域。   |
| Zona kuning /<br>イエローゾーン | 一定の注意をしたうえで、社会活動を許可された地域。<br>一部の地域において新型コロナウイルスの感染が確認される。<br>大規模社会的制限が行われる可能性がある。グリーンゾーンと同じく、一定の注意が必要。 |
| Zona Merah /<br>レッドゾーン   | 複数個所にてクラスターがみられる地域。<br>学校、会社、モスク、教会を閉鎖するなど、グリーン、イエローゾーンより高いレベルでの警戒が必要。                                 |

|                         |  |
|-------------------------|--|
|                         | また、不要不急の外出を制限する。爆発的感染を起こしたコミュニティーに関してはロックダウンし、その地域の人々には自宅にいるよう求める。 |
| Zona hitam /<br>ブラックゾーン | 既に新型コロナウイルスの感染拡大が非常に深刻な地域。   |

そうした中、ジャカルタのアニス知事は、大規模社会制限の移行期に当たる現在、制限の一部緩和を発表しました。この緩和措置により、ジャカルタ特別州では6月8日から、定員の5割という条件で、企業のオフィス勤務や飲食店の店内営業などが再開しました。企業が事務所に出勤させる人数を5割以下に限定して業務を行っているかどうか、警備隊が巡回を行い確認するとの発表も併せて行われました。警告を無視して収容人数などの規定に違反した場合は、強制的に閉鎖を命じるとのことです。

また先月までは、バイクタクシーが人を乗せることができませんでしたが、6月8日からはグリーンゾーンに関しては、乗客を乗せることも許可されました。ただし、以前は運転手が用意したヘルメットを使いまわしていましたが、乗客は自分のヘルメットを持参しなければなりません。グリーンゾーンでは現状、荷物を運んでいるケースが8割、乗客を乗せているケースが2割ほどとのこと。レッドゾーンに関しては引き続き、荷物の運搬のみが許可されています。

観光地に関しても、グリーンゾーンでは再開の動きがみられています。またモスク、教会もグリーンゾーンでは人々の訪問が許されています。断食明け大祭（イドゥル・フィトゥリ）の際も、人数制限を設けたうえで、グリーンゾーンに関しては、モスクでの礼拝を許可されました。ジャカルタの場合は6月5日からモスクへの入所を認めています。ただし、下記のルールが定められています。

- 入所一時間前に礼拝所の消毒を行う
- お祈りは、一時間以内に終らせる
- モスクのカーペットは撤去し、礼拝用のカーペット(sajadah/サジャダ)は各自で持参する
- 入所できる人数は5割まで
- マスク、手洗い、1メートル以上の距離を保つこと

中部ジャワの都市・ジョグジャカルタでは現在、グリーンゾーンの方が多くなってきていますが、東部ジャワのスラバヤはブラックゾーンとなっています。簡易検査を拒否する人が多いことが、感染者が多い原因のようです。ジャカルタのモールの閉鎖はまだ続いているようですが、7月2日頃からの営業開始を目指しているようです。

しかしながら、企業のオフィス勤務が再開したことで、首都圏では通勤ラッシュが再び発生しています。通勤用の電車に乗る人で行列ができるなど、定められたルール（ニューノーマル）を満たしつつの経済活動再開はなかなか難しいようです。政府の対策により、いち早く新型コロナウイルスが収束し、また経済活動の完全な再開が期待されています。

以上

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★

所在地 : Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 46

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,

Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者 : PT.JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア : インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています(岡山県から公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会に業務を委託)。ご利用に当たっては、「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」利用の手引きをご覧のうえ、岡山県産業企画課マーケティング推進室(電話 086-226-7365)までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応していません。